

献呈の辞(松野みどり教授 退官記念論文集)

| | |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------|
| 著者 | 中島 史雄 |
| 雑誌名 | 金沢法学 |
| 巻 | 46 |
| 号 | 2 |
| ページ | 1-2 |
| 発行年 | 2004-03-25 |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/4412 |

献呈の辞

松野みどり教授は、金沢大学教養部に赴任されて三五年、教養部改組に伴い法学部教授に就任されてから八年、金沢大学の発展に寄与されて、国立大学の終焉とまさに軌を一にして、本年三月をもって定年により退官されることになりました。ここに教授の長年にわたるご功績を称えて金沢法学の記念号を献呈させていただきます。

松野教授は、山梨英和学院のご出身で、東北大学文学部フランス文学科を卒業された後、同大学院文学研究科に進学され、一九七〇年に博士課程を終えられるとともに金沢大学講師として着任され、同助教授、教授を経て今日まで研究教育に精励されました。

先生の研究業績は、フランス文学に関して数多くのものがありますが、その主要なものは、「フランス革命論」の著者であるスタール夫人をはじめとするフランス革命期の文学で、とりわけ近年は、アンシャン・レジューム期の検閲制度と発禁本に関心を寄せられていました。

学内委員としては、先生はなんといっても入学試験関係に欠くことができない存在で、入学試験運営委員のほか一貫して外国語（フランス語）の出題委員及び採点委員をつとめられ、法学部では入試実施委員を長らくつとめられるなど、入試制度の運営・改善に尽力されました。また国際交流委員会委員、留学生センター委員会委員、図書委員会委員としてもご専門を生かして貢献されました。

教養部があつた時代には、誰しも大学入学後一人や二人の名物教授や人間味溢れる教授に出会つた経験があることでしょう。とりわけ高校時代に習つたことのない外国語担当教授にはどこか世俗を超脱し、未知の文化の香りさえ漂う趣があります。そのような教授の一人が松野先生であります。ナポレオンにとって目の上の瘤であつたスタール夫人のように、激しいものを内に秘めながらも飄々と自分の生き方を貫かれた松野先生を慕う卒業生

も多いと聞いております。そのような先生がまた一人定年で金沢大学を去られるのは寂しい限りです。
先生は、故郷へお帰りになられると伺っておりますが、益々のご健勝を心から祈念するものであります。

二〇〇四年三月

金沢大学法学部長

中島史雄